

ライフサイクル制度、業務外注化、ダイ改合理化、基地統廃合、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

3/5保線丸投げ外注化提案

乗務手当廃止・転籍強制と闘おう

東労組は、会社の切り崩しに為す術なく脱退者を続出させている状態です。

会社は東労組に対して、「効率化施策の実行に向けてスピード感をもって進めよ」「『不当労働行為』という事実と異なる宣伝をやめよ」といった6項目の要求を突きつけました。それにも東労組は、「施策には向き合っている」「紛争状態は解決しスト権は消滅した」「事実と異なることを宣伝したわけではない」といった回答です。会社の不当労働行為を追及することもできず、「スト権消滅」を掲げて許しを請うことしか出来ない。

これでは何のために労働組合が存在しているのか、まったく分かりません。

東労組崩壊の裏で起きていること

この「東労組崩壊」の裏では、JR体制を大再編する攻撃が始まっています。3月5日には、「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化」という提案が行われています。

その内容は、検査周期延伸や業務の見直しに加え、ローカル線の保線業務を徒歩巡回や線路総合巡視、修繕要否の判別まで、文字通

り丸投げ外注化するというものです。

さらに、《入出区作業の全面委託》《特急車掌一人乗務化》《乗務手当（特勤）廃止》等、運転士・車掌の労働条件を根底から打ち砕く攻撃が開始されています。休憩室・乗務員詰所などには監視カメラが数多く設置され、息もできない職場が作られようとしています。4月1日からは東日本ステーションサービスで「新人事・賃金制度」が実施され、駅別会社化への体制づくりが進められています。会社はその先に、間違いなく転籍強制まで狙っています。

職場には闘う労働組合が必要です

《分社化・転籍》は、一人ひとりの労働者の合意なしにはできません。だから、職場に闘う労働組合が存在しなければ絶対に出来ない攻撃です。もの言えぬ職場にして、労働者から権利を奪う攻撃を止めるためにも、必要なのは闘う労働組合です。

動労千葉は、組合員の団結と信頼を頼りに闘ってきた労働組合です。今こそ動労千葉に結集してともに闘おう。

組合加入等のお問い合わせは、国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）まで

TEL: 043 (222) 7207 メール: doro-chiba@doro-chiba.org